



物流ニッポン

2008年(平成20年)

5 | 5 (月)

発行/月曜日・木曜日 第3130号

増送料/半年92,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

新山下営業所を竣工

タイワコーポ SPC方式で倉庫建設

【石井麻里】タイワコ特定目的会社(SPC)「ボレーション」(曾根功方式で港湾エリアに倉庫社長、東京都品川区)は、新山下営業所を竣工した。新山下営業所は、タイワコーポが昨年四月二十六日、「新山下」初めてとなる。竣工式を前に、タイワコーポが分譲した新山下地区物流ヤシ・エンタープライズ(小林一三社長、西区)への進出事業に決意を表明した。横浜港エリアに面積はエリア最大級の五強いコバヤシ・エンタープライズが共同事業者となり、荷役、梱包、流通加工、配

送などを付加した輸出入センターとなる。竣工後は、中心の総合物流センターSPCが土地・建物を保有し、タイワコーポとの共同運営。総事業費は百十億円、資産のオフバランス化を図るため、SPC方式を採用した。タイワコーポが中間法人を通じてSPCを新設。オリックスからリコースローンで資金を調達し、タイワコーポとコバヤシ・エンタープライズは出資を担い、南本牧ふ頭、大黒ふ頭との道路アクセス



新山下営業所は、横浜港本牧ふ頭と山下ふ頭、大黒ふ頭との道路アクセスの敷地に、延べ床面積五(鉄骨造り)の倉庫を建

延べ床面積はエリア最大級の5万7千平方メートルで、アクセスも良好。業所(金沢区)に続く拠点希望していた経緯を説明。「横浜で倉庫事業をやりたいという先代からの夢がなかった。この倉庫をどう運営していくかが重要で、倉庫に魂を入れなければ、日本経済のうち首都圏物流の一部を任せられているという気持ちで頑張りたい」と意欲をみせた。

藤木企業(中区)の藤木幸太社長は「新山下のこの地は、かつて『貯木場』と言われ、原木の保管場だった。その再開を巡っては『物流』と『人流』が見合っている状況。このような立派な倉庫ができたことからは、横浜・新山下にとって『ここは物流でやっていこう』という大きな梗(くき)になる」と工場(磯子区)、金沢営業所(磯子区)、金沢営業所(磯子区)を送った。